



たもんじ 2019年12月号 交流農園 便り Vol.21



12/8 第一回たもんじ交流農園会員懇談会開催!!



前日の冷たい雨とは打って変わって晴天に恵まれた12月8日、開園後初めての農園会員懇談会が開催されました。この会は皆さんが、日頃の畑作業で感じているご意見・ご要望をお聞きし、今後の農園について、自由に話あうことを目的とした会で、農園会員11名、てらたま協議会事務局6名の計17名が、お茶お菓子、差し入れの手作りどら焼きを頂きながら、忌憚のない意見交換を行いました。

先ず牛久さんより3年目である今年度の整備計画案の説明があり、①もう一つ新しい物置を作りたいが何をどう入れることにするか、②ポールやネット、肥料等は私物とするか共有とするか、③コンポストを作り堆肥化できるようにしたい、④物置の右側とビオトープの畑側の雨水桶の使用を進めたい、⑤入口の竹が割れてきたので、単にゲートを作ってオープンに使えるようにするか、鍵をかけるようにクローズにするか、あるいはオープンには入ることはできるけれど、畑との間にロープなどをはって、入れないようにするか等について皆さんの意見を伺いたいとの問題提起がありました。

農園会員さんからの活発なご意見をいただいた結果、以下の方向で参加頂かなかった会員さんの意向を打診することとなりました。

- 新しい物置に私物保管区画を増やし今の倍のスペースを確保する。各人には買い物カゴ2つ分相当のカゴを準備する。今まで場所を取っていたネットは別に保管区画を設ける。
- 回転使用しているポールに加え、ファイバーポールやネットそれに基本的な肥料数種は農園会員共有分として事務局で購入する。肥料のブレンドや固有の肥料は各人にお任せする。
- 門については、完全にオープンにするとビオトープで子どもがおぼれたり、変な騒ぎを起こして近所に迷惑をかけるのも良くない。完全にクローズにすると一部の人が何かやっているだけの場所と思われてしまいこれも良くない。現状畑に誰かがいて、門(竹)があいていると散歩の方や子どもが入ってくるが、門が閉まっていると入ってこない(みたい)で、2年間、野菜を盗まれたこともない。なので現状のロープを外せば誰でも入れるくらいのオープンさ(クローズさ)がちょうどいい。
- 畑と交流広場の間にロープを張ることに関しては、門を現状と同じようなオープンさとすることを前提にすれば、農作業の大人についてきた子ども達の行き来がしづらいのでしない方がよい。

皆さん本当に農園作業・野菜作りを楽しまれていることを身をもって感じる事ができ嬉しく思いました。何よりも、農園のお隣さんと実際に顔を合わせて、お互いを知ること、より農園ライフが充実してくるものと思います。このような会をこれからも続けてほしいとのご要望もあり、今後定期的開催したいと思っています(小川さんの原稿・高田さんのメールを引用して末林記)。



うちの畑じまん 第14回 三浦歌織 さん



この春からはじめました三浦です。最初は寺島茄子と枝豆、それに小玉スイカを育てました。いろいろ試してみるうちに、あっという間に過ぎた4ヶ月でした。

寺島茄子は沢山の実をつけなかなかの成果となりました。枝豆はどんどんふさの中の実が大きくなっていくことを初めて知りました。小玉スイカの最初の一つは収穫が早過ぎて中が真っ白でした。残りの実を大事に放置しておいて…2ヶ月後恐る恐る切ってみたのですが、赤く甘さ控えめのなんとも言えないスイカになりました。皆さんに振る舞ったところ、案外さっぱり味も良かったようです。

ボーイスカウトの子供たちにも1回だけですがお世話をしてもらい、楽しい体験になりました。今はジャガイモを植えて、芋掘り体験をさせてあげようと目論んでいます。想像よりも沢山の作物を収穫することが出来て、色々な人にお分けできる幸せもいっぱい感じられました。畑には子供たちの作ってくれたプラカードを沢山立てて楽しんでいます。これからも宜しくお願い致します。



うちの畑じまん 第15回 花田恵美代 さん

花田です。たもんじ交流農園が開園してから「農園チーム」の一員として、てらたま区画のお手伝いをしてきたのですが、トマトと豌豆の苗を下さるといふ方があり、じゃあやるっきゃないでしょ、とこの春からハーフサイズ区画を借りることにしました。

てらたま区画でやっている間は、何も考えずに教えてもらうがままにやりましたが、さすがに一人でやるとなるとそうもいきません。本を買ってにわか勉強をしていると、素人には混植がよいと書いてあるのを見つけ、これこれとばかりに、トマト、豌豆と一緒にバジルやパセリ、小松菜、赤シソなども植えました。小松菜は人間が食べる前はかなり青虫さんのご馳走になっていたようですが、でも残りを十分においしく味わいました。



更に、去年てらたま区画に植えていた落花生（写真左）とアピオスが取り残されて芽を出してきたのを引取り、これも植えたところ、どちらも立派に育ってくれました（写真右：収穫した落花生）。すごい生命力ですね。こうして実ってくれる野菜を眺めているだけでこの上ない幸せな気分になります。

一緒にたもんじ交流農園を楽しんでいる皆さん、これからもよろしくお願いします。

新・農園のお隣さんご紹介

- ① 自己紹介、②育ててみたい野菜、③希望するイベントや講演会、④農園にかける想い等

区画 1-2②

大倉 香人(かやと)さんと ご家族



① 大学で農業を学んでいました。専門は、植物の病気で主にカビが起す病気を研究していました。有機栽培を実践するサークルにも入っていたので、これまでの経験や得た知識が少しでも役に立てればと思います。高校で生物を教えています。

② 子どもが好きな野菜を作りたいと思っていますが、江戸野菜にも挑戦してみようと思っています。

③ ピオトープや畑で見られる生き物についての講演を聞きたいです。

④ 子どもの食育や地域の交流が持てればと思い参加しました。よろしくお願いします。



水口アドバイザー来園日は、12/15(日)、来年は1/26(日)、いずれも10～4時の間です。



たもんじ交流農園便り
No.21-般 2019.12.16発行
題字 田村風来門
編集 末林和之

てらたま協議会 (NPO 法人 寺島・玉ノ井まちづくり協議会)

<https://www.facebook.com/teratama/>

問い合わせ先 小川 剛 (080-3421-3115)

セブン-イレブン記念財団

